

1月号

MUTLI YILLAR (明けましておめでとうございます。)



・新年の幕開け

2023年が始まり早くも約1ヶ月が過ぎました。私は大晦日に友人達とワインを飲みながら年越しを迎えました。全体的に日本のようなお祝いムードはなくゆるっとした空気感でしたが、はじめて外国で年越しを迎えたので特別な一年です。今年自分で立てた目標を着実にこなしていくぞー！オーー！！

©赤ワインとフルーツワインでキャッキヤと楽しんだ我々@近所の公園 12/31-1

/1→





さて、今月は今まで触れてこなかった「リアルに辛い！」を取りあげます。留学は楽しいだけじゃない！を痛感した出来事なので興味のある方はご参照下さい。

・トルコで苦勞したこと……

イカメット手続きです。：一緒にトルコに留学している友人もすでに報告していますが、膨大なストレスがかかりました。（ちなみに現時点で私のイカメットは未完了…再申請終わるといいナ！！：））

* トルコで90日以上滞在する場合は“イカメット”と呼ばれるカードを持つ必要があります。これは「不法滞在してませんよ。」という証明でもあるため、もしも持っていないと罰金、強制送還などが課される可能性があります。

・戦慄！三つの恐怖

1. **大学は何も助けてくれない**



まず、イカメットはトルコに到着してからでないと申請できないため、留学先のイズミル経済大学側が助けてくれるのだろうと呑気に考えていました。しかし大学側からのサポートやアナウンスなどは一切無く、全て各自ネットで調べたりトルコ人の友人に助けて貰ったりして準備を進めました。また、イカメット申請には大学側の発行する在学証明等が必要なのですが、メールを送っても時々スルー+書類ミスと雑な部分があるため、（実際友人は書類ミスのせいでかなり苦勞していました泣）書類チェックと早め早めの行動が大切だと感じました。

2. 担当官によって対応がバラバラ



次に、イカメット移民局でもトラブルは続きます。自分の担当官に書類を手渡ししながら手続きを始めますが、正直担当官によって態度も対応もバラバラです。英語に通じる方もいれば、トルコ語オンリーの担当官もいます。またきまった手続きの順番が定まっておらず、要求される書類や質問なども異なります。今回の留学では4人の日本人がイカメット申請を行い、皆同じ環境下（大学・寮）で生活しているにも関わらず、イカメットの保証期間や発行時期にばらつきが出ました。正直担当官の人柄とさじ加減で決められているのではと感じてしまいます。スムーズに一度で申請が完了するとしたら奇跡です。それくらいイカメット申請には時間がかかります。

3. 融通が利かない



最後に、イカメット申請をする際に事前の提出書類で希望の滞在日程を聞かれる欄がありますが、ほとんどの確率でその希望は通りません。なぜなら担当官は本人の希望よりも大学側の発行した滞在証明書や保険のカバー期間などを基に滞在日程を決めるからです。そのため私は担当官や大学側に「トルコが大好きで少し余暇をトルコで過ごしたいので滞在延長を許可してくれ」という旨の要求を伝えましたが「Hayir=(無理)」の一言で却下されました。陽気で寛容なトルコ人を沢山見てきたからこそ、行政に関しては冷徹に書類の数字でしか滞在を認めてくれない態度に驚きました。

・まとめ

今回はトルコで苦勞していることを取りあげました。留学はいつも魅力的で楽しいわけではありません。特に今回紹介したイカメット申請は時間も精神的にも負荷のかかる手続きだと感じました。ほぼトルコ語しか通じない点や、私達が初めてトルコに渡った留学生なので先輩方に相談が出来なかった点も余計に悩んだ理由かもしれません。しかし、これらの面倒を切り抜けてこそ次に留学する後輩への力になれますし行動力が身についたなと感じています。

最後に主張しておきたいことは、**トルコが大好き！！**であるということ。イカメット申請のストレスよりも**トルコ人の友人**と過ごす楽しさや優しさに触れると幸せな気持ちが何倍も高まります。文化も人も魅力で溢れているトルコをまだまだ紹介し切れていないので来月はまた違う視点でトルコ事情をお届けしていきます！

(チラッと今月の写真も載せておきます) 城崎

